

令和5年度 浜松市美術館内部評価

基本理念

「明日への希望を見出す美術館」

誰もが気軽に立ち寄れる憩いの美術館であることで、美術との出会いの場を広げます。

都市の拠点として国内外の優れた作品や地域ゆかりの作品の鑑賞の機会、人々の参加・交流により市民が心豊かになる美術館を目指します。

総評

世界的な広がりを見せていた新型コロナウイルスの流行が、来館者数に大きく影響していたが、令和5年度に5類へ移行したことから美術館は少しずつ賑わいを取り戻している。

令和5年度は年間を通じて、浮世絵、アニメーション原画、仏像などジャンルの異なる展覧会を開催し、幅広い世代の来館者が見られ、基本理念である「誰もが気軽に立ち寄れる美術館」を達成した。

1 展覧会

優れた美術を鑑賞できる展覧会を開催し、来館者の裾野を広げます。

(1) 平常展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
劉生展	R5/4/22~6/11	44日	13,827人	45,000人	96%	86%
みほとけ展	R5/10/14~12/3	44日	13,819人			
辰年を寿ぐ展	R6/2/10~3/13	40日	15,695人			
-	-	128日	43,341人	-	-	-

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

成果	改善点
<p>■劉生展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松ゆかりの洋画家・岸田劉生（1891-1929）を支援した山本貞治郎（旧富塚村出身、1890-1923）の没後100年を記念し、劉生の作品と当時の様子がわかる写真をパネルにして展示した。（岸田劉生3作品、中川一政1作品、中島正貴2作品） ・これまであまり知られていなかった劉生と浜松の関係と、同時期に起こった武者小路実篤を中心とした「新しき村運動」を紹介することができた。 ・展覧会の内容をInstagramに掲載することにより、これまで行方不明であった山本貞治郎の遺族から連絡をいただき、貴重な資料を借用し、研究を進めることが出来た。 ・その結果、令和6年度に開催した「浜松ゆかりの洋画展」において、研究成果を報告することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小展示室のため紹介できる作品やパネルが少なく、展示の趣旨を十分に紹介できなかった。今後は、簡単な解説ペーパーなどを用意し、お客様の理解を助ける工夫をしたい。
<p>■辰年を寿ぐ展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辰年の企画として、浜松市美術館所蔵の「龍」をモチーフとした作品を展示した。（古田晴久1作品、能勢海旭1作品） ・両作家は、市展の審査員を務めた浜松市出身の画家・書道家である。同時開催の市展の観覧客の中には両作家を知る人もおり、親しみをもって見ていただく事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両作家の研究まで及ばず、来館者や他館の問い合わせに十分に答えることができなかった。両者は、浜松市美術館の創設にも尽力した作家であるため、今後、研究を進めていきたい。

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
第71回市展	R6/2/10~3/13	28日	4,371人	5,000人	87%	80%

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・大賞受賞作品を令和6年度「浜松ゆかりの洋画展」開催期間中に通路に展示し、多くの人に鑑賞していただくことができ、市展の周知につながった。 ・例年、作品の天地がわかりにくい作品があったため、募集要項に「作品天地確認票」及び「作品シート」を設け、天地を示してもらったようにした。 ・展示を受入順としたことで、展示作業時間を短縮した。 ・審査結果をホームページ及び美術館入口付近で掲示したことにより、審査結果通知の記入、校正、返信が不要となった。 ・同じく、募集要項をホームページに掲載したことで、各自応募票を印刷して利用してもらおうことができるようになった。 ・英語・ポルトガル語版の募集要項を作成し、ホームページに掲載したことで、市内在住の外国籍の方の応募へとつながった。 ・募集要項の記入欄について、簡潔な表記に改善し、不要な項目（性別、年齢）を削除した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・搬入受付から審査日・開催日まで日程が短かったため、目録作成に苦慮した。目録校正等は時間を要するため、余裕をもってスケジュールを組みたい。 ・例年、目録作成作業に多くの時間と労力を費やしている。搬入時に難解な字等は確認をしているが、出品者への再確認を要する事態となっている。今後は募集要項に、常用漢字を使用する旨を明記する。 ・団体搬入と秋野不矩美術館へ搬入は、作業時間に余裕を持たせるため、団体搬入を午前にする。 ・ホームページ掲載と入口付近掲示の日程がずれてしまったが、今後は同日とし、募集要項に、審査結果掲示は開幕前日までとすることを明記する。 ・審査結果発表日に選外作品返却は行わない旨を募集要項に明記する。 ・審査結果に関する電話での問合せには回答しない旨を募集要項に明記する。 ・動画撮影禁止の旨を募集要項に明記する。（動きながら撮影すると、他の作品を壊す可能性があるため） ・入賞者だけでなく選外の方にも引き続き応募してもらおうよう声掛けをしていく。 ・協働センター等で活動する絵画団体への呼びかけを行っていく。

(2) 特別展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
北斎展	R5/4/22～6/11	44日	13,827人	15,000人	92%	86%
新・山本二三展	R5/7/8～9/10	60日	42,809人	30,000人	143%	92%
-	-	104日	56,636人	-	-	-

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

成果	改善点
<p>■北斎展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界的に認知度の高い葛飾北斎の作品を125点展示し、市外からの来館者も多く観覧者数は1万3000人超を記録した。 ・初期の作品から《東海道五十三次》や《富嶽三十六景》等の有名作品、晩年の肉筆画まで北斎の作品遍歴を見ることができたため、多くの小中学生が来館した。 ・北斎に興味・関心のある方からの要望に応え、予定より多く学芸員によるギャラリートークを開催した。 ・出展作品の所有者であり、本展監修者でもある中右先生による講演会は非常に好評で定員50名が満席となった。 ・市立看護学校では、学芸員のアドバイスをもとに担当教員が鑑賞の仕方や北斎に関する授業を行い、実際に鑑賞授業を行った。当日は多くの学生から「北斎について知識が広がった」、「作品の鑑賞を通して観察力や創造力が高まった」等の意見が多く聞かれた。 ・直営展にもかかわらず、市関係課と調整し実行委員会同様の形態で物販を行い、見込みより多くの売上げがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松城公園の大河ドラマ館のチケット提示で20%引等の取組や名義共催という形で新聞や雑誌への広報等を行ったが、目標である2万人を達成することができなかった。 ・今後はターゲットを意識し、効果的な広報を考えていきたい。

成果	改善点
<p>■新・山本二三展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が5類へ移行して初めての夏休み展覧会となり、令和元年以降4年ぶりに4万人を超える来館者数を記録した。 ・コロナ禍に導入したピープルカウンターによってホームページで混雑状況をリアルタイム表示したことで、事前に混雑状況を把握することができたため、大きな混乱やトラブルなく、良い鑑賞環境を維持できた。 ・初期から最新作まで手書き背景画に加え、映像での作品解説を約10箇所で開催した。カメラワークに合わせて制作されたアニメーション背景画ならではのテクニックをわかりやすく紹介する企画が好評だった。 ・作品を覆うアクリルに低反射フィルムを貼り、見やすいと来館者から好評だった。 ・展示作品の名称、作品解説パネルなどすべての文字情報を英語とポルトガル語に翻訳した案内を展示室前で配布した。配布数は英語は300部以上、ポルトガル語は50部以上であり、外国籍の観覧者に展示を楽しんでいただくことができた。 ・当館では初の試みとして、チラシ等のデザインを専門業者へ委託した。十分な期間をとり、綿密な打合せと校正を経て制作したデザインは、来館者用のチラシが無くなるほど好評であった。 ・毎月23日を「二三の日」とし、23人目の来館者にプレゼントをする企画や、作品を拡大したスクリーンを背景として撮影できるスポットの設置など、SNSでの拡散を狙った広報や宣伝を積極的に行うことで、来館者増につながった。 ・過去作品にまつわるエピソードや新作に関するインタビュー映像をアトリエで撮影し、浜松でしか見られない特別映像として館内放映したことで、アニメーション美術の第一線で活躍してきた二三氏の現在の活動について紹介することができた。 ・本展覧会のために、令和5年3月に制作していただいた最新作《桜舞う浜松城》を初公開した。下絵や、アトリエで撮影した「地塗り」作業の様子を映した映像を併せて展示することで、細部まで描きこまれた本作品がアニメーション美術作家ならではのスピード感をもって制作されたことがよくわかる展示となった。 ・二三氏は会期中の8月19日にご逝去された。このため、急遽お悔みのパネルを展示最後に掲示する対応をした。また、惜しくも新作《桜舞う浜松城》が、完成された作品としては最後のものとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・順路がわかりづらいとの指摘があり、表示を増やすなどの対応を行った。 ・受注生産のサイン入り複製画を販売したが、二三氏のご逝去されたため、サインが入れられなくなった。これについて、注文済みのお客様への対応を複製画販売業者が独断で行い、当館と情報共有がなされなかったことで、お客様へのオペレーションが食い違うなどのトラブルが生じた。予期せぬことであったが、トラブルを未然防止できるよう速やかな対応を行いたい。

(3)企画展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
みほとけのキセキⅡ	R5/10/14～12/3	44日	13,819人	25,000人	55%	93%

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・遠州・東三河地域の「しられざる仏像」（市指定級・未指定の作例）を周知することができた。特に、長福寺の阿弥陀如来坐像は、これまでその存在が知られておらず、本展に向けた調査研究によって、平安時代の作品であることが見いだされた。県・市指定級の作例でも展覧会に向けた調査研究の過程で新たな知見が見いだされた。林慶寺の大日如来坐像は寄木造りではなく割矧造りであること、後補とされていた両腕や脚部や当初のものとは判明した。応賀寺の四天王立像は平安時代後期の作である可能性が見いだされた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玖延寺の薬師如来立像は、本展に向けた調査研究において「一日造立仏」の類である可能性が見いだされた。展示ラインナップや予算確定後の発見であったため、展示は叶わなかったが、調査内容のパネル展示と図録へ論考を掲載した。 ・三ヶ日の隣海院の阿弥陀如来坐像、二天立像、岩室廃寺の菩薩形立像等、世の中に知られていない作例が見いだされたが、展示は叶っていない。今後、これらの作例をさらに取り上げていきたい。

成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・岩佐光晴氏、山岸公基氏、田島整氏、島口によるシンポジウムでは、遠州の仏像と駿河、伊豆、三河の仏像を比較検討することで、遠州地域の仏像の傾向や仏教文化圏の特徴が浮き彫りになった。地域情報センターのホールが満席となり好評であった。 ・鹿島美術財団による助成研究「館浜名湖文化圏における仏教文化の基礎的研究」の成果を展示構成や図録掲載論考、解説に生かすことができた。 ・受賞はならなかったが、日本アート評価保存協会「秀逸企画賞」の推薦を受けた。 ・久保沙里菜氏等、仏像インフルエンサーを活用したイベントが成功した。 ・小中学校との連携による仏像講座、教育普及プログラム等、多種多様な講座を実施することができた。活動内容が月間「教育美術」（2024年5月）に取り上げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みほとけのキセキⅠ」に比べ、来館者数は9000人減となった。「みほとけのキセキⅠ」では、10点の重要文化財の展示があったが、今回は所蔵品の繡仏を除けば出展はなかったことが要因の一つと考えられる。仏像の価値は文化財指定のランクのみで語るべきでないことは言うまでもないが、当館は令和6年3月に「公開承認施設」となったことから今後の展覧会では、このアドバンテージを十分に生かしたラインナップを検討していく。 ・シンポジウムにて駿河、伊豆地域の仏像との比較を行った。これまで遠州・東三河地域に絞って調査研究を行ってきたが、シンポジウムの成果を生かす意味でひとまず駿河地域にも研究範囲を広げ、今後成果を示したい。

2 教育普及活動

市民の感性を育むため、美術に触れる機会と他者とのつながりを提供します。

(1) 団体鑑賞

内容	参加者数、実績（人）
学校や施設等の団体利用の受入れ	2,432人
成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、コロナ禍以前の団体申込数に戻りつつある。特に、「新・山本二三展」の学校等が夏休み期間の開催でありながら20団体からの申込みがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き庁内や市内学校掲示板にて、団体鑑賞受付の案内を出したり、SNSで情報発信したりと、周知活動を継続する。特に、浜松ゆかりの展覧会における団体申込数増となるよう取り組んでいく。また、教員研修に積極的に参加するなど直接周知できる機会を多数設けるようにする。

(2) ギャラリートーク

内容	参加者数、実績（人）
学芸員・作家等による作品解説	445人
成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・「みほとけのキセキⅡ」では、学芸員によるギャラリートークに加え、仏像好きフリーアナウンサーの久保沙里菜氏との対話型ギャラリートークを実施した。 ・仏像所有者による展示解説「おっさまトーク」を実施した。 ・当初予定していたものに加えて、小中学生の来館、教員研修や県文化財講習等の機会に学芸員によるギャラリートークを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作家によるギャラリートークや、ゲストを迎えたトークセッションは来館者から好評である。展覧会に応じて可能な限りこうした機会を検討していきたい。

(3) 講演会

内容	参加者数、実績（人）
作家・専門家等による講演	336人
成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・「みほとけのキセキⅡ」では、シンポジウム「仏像フロンティアー遠州地域の仏教文化圏ー」を開催した。岩佐光晴氏、山岸公基氏、田島整氏とともに遠州の仏像と、駿河、伊豆、三河の仏像の比較を行った。全国から参加者が集まり、研究者の参加も目立った。お笑い芸人・みほとけによる仏像トークショーは、ネタを交えながら仏像について楽しく基礎から学ぶことができ好評であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みほとけのキセキⅡ」のシンポジウムは、複数の研究者と連携した点、館外施設を借用し、大きな規模で開催した点において好事例となった。今後のイベント開催の参考事例としたい。

(4) ワークショップ

内容	参加者数、実績（人）
展覧会の内容に応じた表現・鑑賞活動	56人
成果	改善点
<p>・「みほとけのキセキⅡ」では、「子どもわくわく仏像鑑賞教室」を実施し、親子8組16人の参加があった。仏像のポーズや表情、大きさや印象によって参加者でテーマごとに対話したり、体全体を動かして仏像のポーズを真似したりして、仏像に親しんだ。</p> <p>・「新・山本二三展」では、「ゾートロープをつくってみよう」と題したアニメーションの原理を学ぶことができる内容のワークショップを実施した。セロハン紙に自分で描いた絵が、自分で描いた背景の中で動く様子を見て、手書きのアニメーション制作への興味や理解につながった。</p>	<p>・ワークショップとは、その活動を通して参加者にどのような学びの機会を提供するのか、開催中の展覧会、展示作品や館蔵品、館蔵作品作家や地域ゆかりの作家との関連性を考慮したうえで実施する必要がある。美術館でその時期に開催する意義を見据えた計画をしたい。</p>

(5) 出前講座

内容	参加者数、実績（人）
美術館の収蔵品や展覧会等に関する講座、出張授業等（※他団体等主催事業への参加含む）	1,476人
成果	改善点
<p>・大学、協働センターのカルチャー、教員研修や文化財研修等、多様な要望に応え講座を実施した。特に市内の大学（聖隷クリストファー大学、浜松学院大学、静岡文化芸術大学）との連携講座は過去5年間継続的に実施している。</p>	<p>・以前から交流のあった静岡大学との関わりがここ1～2年希薄になっている。今後の連携のあり方を模索する必要がある。</p>

(6) 博物館実習、職場体験、教員研修

内容	参加者数、実績（人）
実習・研修等（中学生の職場体験、大学生の博物館実習、教員研修等）の受入れ	91人
成果	改善点
<p>・博物館実習（大学生）、職場体験（中学生）は例年通りの規模・人数で実施した。教育センターと連携した教員研修は2年目となるが、「みほとけのキセキⅡ」の会期中に実施し、初任者の教員に地域ゆかりの文化財の価値や魅力を説明することができた。</p>	<p>・美術館での教育活動とその成果、可能性に関する講義と、展示室内で本物の作品に触れる機会のバランスを図る形で研修プランを構築していく。</p>

3 その他

様々な人に開かれた美術館とし、施設・設備の充実と健全運営を目指します。

(1) 来館者アンケート ※北斎展、新・山本二三展、みほとけのキセキⅡ、第71回市展にて実施

スタッフ対応満足度	施設満足度	施設に望むもの
73%	80%	カフェ 68%、常設展示室18%、収蔵品検索コーナー9%、その他5%

※満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

(2) 美術館設備

令和5年度に実施した修繕等	
自動シャッター修繕 警備用回線修繕 地域遺産センター天井点検口修繕 トイレ排水口修繕 ピープルカウンター設置	展示室棚硝子修繕 既存無線修繕 展示フィルム取替修繕 煙感知器取替修繕 防火扉フランス落とし修繕

(3) 展覧会等の情報発信

令和5年度に実施した広報活動等
<p>・ポスター掲示やチラシを配布したほか、展覧会共催者によるテレビCM等を活用した情報発信を行った。新山本二三展・みほとけのキセキⅡ展については、テレビCMによる広報の効果が大きく感じられた。</p> <p>・浜松城公園内やどうする家康大河ドラマ館敷地内にA型看板を設置し、また、館内（売店）にもポスターの掲示やチラシ置場を配置し、展覧会情報の周知を図った。</p> <p>・ポスターのデザインを決める際には担当だけでなく全職員で見やすさやデザインの観点から決定した。</p> <p>・若年層を取り込むため、SNSを活用した情報拡散に取り組んだ。企画会社や作品の借用先と交渉し、来館者に作品撮影の機会を設けるようにしている。館内にはX（旧ツイッター）やFacebook、InstagramのQRコードを掲示して容易にアクセスしやすくしている。</p> <p>・若年層に興味をもってもらうようにSNS投稿は柔らかい表現で発信している。近年のフォロワー数の伸びは著しい。（参考：7/30 現在のフォロワー数9,386）</p>

■令和5年度 浜松市秋野不矩美術館内部評価

基本コンセプト

天竜二侯出身の日本画家で文化勲章を受賞した、秋野不矩美術館の画業を顕彰し、作品や関連資料を展示・保存・調査研究することで全国に広く紹介し、後世に継承していく。

秋野不矩作品の一層の理解と人間理解まで鑑賞の質を昇華させるため、「見の目弱く、観の目強く」をコンセプトに表面的理解や知識伝達のみにならない展示及び作品解説を行う。

美術館運営の核となる「多様な価値との出会い」「作品が自己を映し出す鏡」となる役割を果たすよう作品の意図的な展示を図る。

教育普及活動により地域住民の美術をはじめとする芸術文化振興を図る。

地域の関係団体や企業、学校、商店街等と連携し、浜松市や天竜地域への来訪を促し地域振興へつなげ

総評

所蔵品展は、秋野不矩作品への理解が深まるよう館のコンセプトや年度テーマ、所蔵品展テーマ、見どころを具体的に示す展示を行った。あわせて、新たな日本画表現を目指す画家であったこと、母であったこと、激動の社会を生き抜いた女性であったことを画業、生き方など様々な視点を焦点化した展示を行った。特に、下描きと本画を並べて展示することで構想から本画までの思考の変化などを捉えやすくする工夫をし、表現意図や造形的な作品構造の意図をわかりやすく解説することを心がけた。下絵、素描の展示活用により本画作品点数を調整することができ、それぞれの作品を休ませる期間を少しずつ増やすことにつながり作品劣化軽減を図った。

特別展は、秋野不矩が目指す表現が共通する作家らを若手を含めて取り上げたり、伝えたいメッセージやテーマを一にする作家を取り上げたりした。これにより、秋野不矩の作風や表現意図を、時代ごとの価値観や社会的背景から、作品だけでなく人間性や日本画表現の歴史の変遷も辿って多面的多角的に理解する展覧会ができた。

教育普及活動や各種事業の質的充実が図られるようになってきた。今後も作家と子供たち、秋野不矩と地域、秋野不矩の表現と子供たちの強化の学びをつなぐ活動を充実させていきたい。

1 展覧会

優れた美術を鑑賞できる展覧会を開催し、来館者の裾野を広げます。

(1)所蔵品展《見の目弱く、観の目強く》

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
「地」の声を聴く いのちの輝き～ざらざらと～	R5/4/1～4/16	133日	7,898人 59人/日	10,000人	79%	94%
「水」の声を聴く ～いのちの源～	R5/4/22～5/28					
「風」の声を聴く ～古からのいのち～	R5/8/5～9/3					
「火」の声を聴く ～いのちの煌めき～	R5/11/14～12/24					
「空」の声を聴く ～いのち・創造の原点～	R6/1/4～1/31					

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

成果	改善点
<p>・所蔵作品のキャプションを昨年度に続きリニューアル。解説を拡充し、秋野不矩の生き方や不矩を取り巻く様々な人間関係、作品制作当時の時代背景や、女性として母としての人間性をわかりやすく伝えられるよう工夫した。複数回展示する作品には、同じ表現で解説しないよう配慮し、リピーターにも満足感を提供できるよう対応した。作品目録は、昨年度からさらに改善し、文字の大きさ・キャプションサイズ、各回の企画やそのコンセプトをわかりやすく見やすい記載を心がけることにより来館者に作品への理解を一層深めていただけるよう配慮した。</p> <p>・コンセプトや見どころ紹介揭示、キャプションの撮影許可を求める来館者が現れたり、来館者の鑑賞時間が全般的に長くなったり、来館者の鑑賞の質の変化を感じとることができた。テーマを設けて展示することにより、展示作品の見せ方にも明確な視点を示すことが容易になった。また、具体的な解説を入れたことで、教育活動に結びつけたいと考える方から依頼があり研修会へつながった事例もあった。</p> <p>・展示コンセプトを展示室内に掲示することで、メモをとる方やスタッフに質問する方が増えるなど、時間をかけてじっくり鑑賞する来館者が増えた。</p> <p>・所蔵品展会期中、市民ギャラリー使用予約がない場合に限り、藤森照信パネル展を実施し来館者に好評であった。</p>	<p>・小規模美術館のため、特別展開催中は、秋野不矩作品の展示数が限定されてしまう傾向にある。このため、常設展示を望む声比較的が多い。しかし、日本画は作品劣化を防止するため展示期間は40日が限度であり、常設展示は難しい。日本画作品の保存のため、日本画の特性理解と100年後も現状と同じ状態で作品を鑑賞できるように一定期間作品を休ませることに対する理解に向け周知を図っている。今後も継続的に周知していくための工夫が必要であると感じている。</p> <p>・外国から来館された方は、キャプションにスマホをかざし、翻訳アプリで読み込んでいる方が増えている。今後、多言語化に向けてどのように対応していくか、対策を講じる準備をしていきたい。</p>

(2) 特別展

展覧会	開催期間	開催日数	観覧者数	目標	達成率	顧客満足度
秋野不矩・金子富之が描く アジアの神々	R5/6/17~7/30	38日	4,013人	5,000人	80%	94%
加山又造と継承者たち —新たな地平を求めて—	R5/9/16~11/5	44日	4,869人	6,000人	81%	90%
上村松篁が描く万葉の世界 『額田女王』挿絵原画展	R6/2/10~3/24	38日	5,414人	6,000人	90%	92%

※顧客満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

成果	改善点
<p>■秋野不矩・金子富之が描くアジアの神々</p> <p>・秋野不矩と金子富之、世代も作風もまったく異なる二人の日本画家がアジアの神々や信仰を題材として描いた作品を展示。日本画の伝統にとらわれない精神と、アジアを見つめ、厳しい環境の中でたくましく生きる人々の生活と密着した神々をテーマとしたところが共通する。不矩作品と金子作品の対比により、不矩の慈愛に満ちた眼差しを改めて紹介することができた。</p> <p>・妖怪や精霊、神々など目に見えない存在を描き出すことで注目される日本画家・金子富之を多くの方に知っていただく機会となった。金子の対策は、当館第2展示室の空間で圧倒的な存在感を放ち、これまでにない展示となった。不矩の《オリッサの寺院》《ヴァラーハ》とともにさながら神殿のような展示空間となった。</p>	<p>・順路がわかりづらいとの指摘があり、表示を増やすなどの対応を行った。</p> <p>・一般にあまり知られていない作家であり、作品自体の魅力を紹介することができれば来館者数を伸ばすことができたのではないかと。事前広報だけでなく、開幕後の展示風景やギャラリートークについてSNS発信を増やしたい。会期半ばや後半にもイベントを開催できるとよかった。</p> <p>・アンケートでは、不矩作品と金子作品を合わせて展示することについて、金子作品が強すぎて不矩作品がかすんでしまうというような否定的な意見も数件あった。何を感じ、どのように観るのかについては自由だが、ギャラリートークなどを通し、少しでも作品や作家についての理解を深めていただくことが来館者の満足につながるのではないかと。</p>

成果	改善点
<p>■加山又造と継承者たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋野不矩が創立メンバーとして活躍した創画会の第2回展に初入選した加山は、常に革新的な作品を生み出すと同時に、後進育成にも力を注いだ。この展覧会では作品を通じて、加山の革新と挑戦に迫るとともに、加山の指導を受け、現在の画壇で活躍する作家たちを紹介することで現代日本画の潮流を知ることができる展覧会となった。 ・市川裕司、吉澤舞子は、本展覧会に出品した新作がきっかけとなって第9回日経日本画大賞展に入選した。若手作家が多くの人に知られるための作品発表の場として、当館が機能したことは、広く日本芸術界への貢献となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋野不矩と直接関係のある作家ばかりではなかったため、展覧会の意図がわかりづらく混乱する来館者がいた。説明を丁寧に行う必要があった。 ・秋野不矩作品を観たくて来館した人から展示作品が少ないと不満の声があった。今後の特別展ではバランスを考えて構成したい。
<p>■上村松篁が描く万葉の世界 『額田女王』挿絵原画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋野不矩とともに創画会の創立メンバーのひとりとして画壇で活躍した上村松篁が井上靖の小説『額田女王』の挿絵として描いた作品に加えて、花鳥画家として活躍した松篁の代表作に挙げられる本画も展示し、幅広い画業を紹介することができた。 ・松篁の挿絵を展示することにちなんで、2階の展示室では秋野不矩が描いた絵本『いっすんぼうし』の原画を展示した。秋野不矩に対してインドをテーマにした作品のイメージを持っている人も多いが、渡印後に制作された『いっすんぼうし』の原画は日本画の技法を活かして描かれており、秋野不矩の違った魅力を紹介する機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史小説を元に描かれた作品だったため、ストーリーを紹介するためのキャプションの文字数が多くなってしまった。 ・小説の登場人物が多いため、展示室内に主要登場人物の関係図を一カ所設置したが、複数箇所に設置しても良かった。何度も関係図に戻ってみている来館者があった。

2 教育普及活動

市民の感性を育むため、美術に触れる機会と他者とのつながりを提供します。

(1) 団体鑑賞

内容	参加者数、実績（人）
<p>学校、地域の諸施設や、全国からの観光目的の団体来館・鑑賞を受け付ける。 希望する団体向けに秋野不矩の人物や作品、当館建築をより知っていただくための解説を実施。</p>	917人（見学前ガイド実施人数）
成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・希望団体には見学前ガイドを開催。令和5年度は45団体の希望があり、900人以上に実施した。「館長によるガイドが良かった」という知人からの口コミで来館した団体があった。ガイドが来館者の満足につながった。 ・見学前のガイドにより、最初に秋野不矩や当館の建築について学び、見学する上でのポイントを知ることにより有意義な見学・鑑賞を提供できた。 ・団体来館申込書の書式を見直し、事前に領収書の有無や人数内訳などを把握し、合わせて見学時の注意事項や観覧料を伝えることで当日の入館受付の時間短縮や所蔵品展と特別展の料金の勘違いなどトラブル防止につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が小さいため、団体人数が30名以上になると室内が大変混雑してしまう。時間差で入館いただいたり、見学順序を1階からと2階からに別れて入館いただいたりしている。混雑時でもできる限り団体来館者とそれ以外の個別来館者の満足度を下げないよう、今後も工夫して対応したい。

(2) ギャラリートーク

内容	参加者数、実績（人）
<p>展覧会担当学芸員や作家等が展示内容について解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員解説：上村松篁展 ・作家等解説：アジアの神々展（金子富之） ：加山又造展（出品作家5名及び学術協力者） 	123人

成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別展ごとに出品作家または学芸員によるギャラリートークを実施し、来館者に作家とその作品や展覧会テーマへの理解を深めていただくことができた。 ・ 館長が展示室の監視に入る際は、できる限り来館者の理解を深められるよう解説やトークを取り入れた対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所蔵品展では、館長が個別・グループごとに解説することはあってもホームページ等で事前に広報していなかった。解説がアンケートで大変好評のため、今後はトークイベントを企画・実施していきたい。また、特別展でもトークを目的に来館する方も多いため実施回数増を検討する。

(3) 講演会

内容	参加者数、実績（人）
<p>上村松篁が描く万葉の世界『額田女王』挿絵原画展に関連する、歌人「額田王」の人物と歌についての講演会を開催。 講師：花井しおり（人間環境大学心理学部教授） 会場：天竜壬生ホール会議室</p>	46人
成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の関係者が講演会を広報したことがきっかけで、初めて秋野不矩美術館を訪れた方が複数あり、県外からの参加も見られた。 ・ 万葉集から「額田王」を読み解いたため、最新の学問としての「「額田王」を学ぶことができた。 ・ また、その周辺の歴史的事象や当時の習慣など幅広い知識を得ることができ、講座を受講することでより深く展覧会を楽しめるような講演会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場の都合上、事前申込制で定員50名としたが、開催前に定員に達したため申込をお断りしなければならなかった。（当日欠席あり）また、会場はほぼ満席のため、窮屈感が否めなかった。今後は、会場設定を検討したい。

(4) ワークショップ

内容	参加者数、実績（人）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み絵手紙教室「自由に〇〇を楽しもう」小学生を対象に水彩絵の具や顔料を使って描く楽しさを感じてもらおう絵手紙ワークショップを開催 <p>会場：天竜壬生ホール会議室</p>	23人
成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師は幼稚園でも絵手紙教室を開催しており、講座の最初の解説では、子供たちが楽しめるような声かけを行うなど、小学校低学年から高学年まで気軽に制作できた。 ・ 日本画で使用する顔料を用意していたため、意欲的な子は「顔彩」を使用した作品制作にチャレンジしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を仕上げるのが早い子にとっては持て余す時間があり、消しゴムによる落款づくりの道具を用意したが、小学校低学年の子には文字を反転させて制作することが難しかった。

(5) 教育普及講演会

内容	参加者数、実績（人）
<p>秋野不矩の画業の顕彰とともに美術教育や幼児期の表現についての理解や支援に関する講演会を開催 （磐田市立東部幼稚園、掛川市教育センター、二俣幼稚園他）</p>	104人
成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技研修では、秋野不矩が使った琳派の技法である垂らし込みや滲みなどを「ウェットインウェット」や「バックラン」という表現で小中学校の図工・美術で使える技法を伝えている。 ・ 自分の感覚を大切にすること、表現を否定しないこと、子供の働かせたい力を認めることを指導や支援に活かすことの重要性を伝えた。 ・ 幼児教育において、絵の具を用いた表現をする際は色を混ぜると別の色になることを共感的に寄り添う姿勢や「共同注視」「驚く心」を指導者側も忘れないよう講話した。 ・ 年々、講師依頼件数が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講話の時間と実技の時間との調整が難しい。また、依頼時期が夏季休業始めがほとんどのため、日程の調整が難しいケースが増えている。

(6) インターンシップ受入れ、教育プログラム受入れ

内容	参加者数、実績（人）
県内・近隣県大学の学生等インターンシップの受入れ 職場体験・校外学習・教職員研修の教育プログラム等の受入れ	115人
成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・大学生インターンシップ：1名 ・高校生職場体験：3名（天竜高校2年生） 地元学生に美術館監視業務や受付補助業務等の体験を通して、芸術文化に携わる仕事において大切にしていることを学んでもらい、当館について知ってもらうとともに教育活動に協力することができた。校外学習では、希望する学校には見学前ガイドを実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習では希望に応じて見学ガイドを実施したが、鑑賞体験を深めてもらうため他にも学習メニューを用意するなど工夫の余地がある。（子供向けギャラリートークやワークシートなど） ・実習は対応可能な職員に限られるため、実習希望が増えるのは良いことだが、件数が増えると対応が難しい。どの時期にどのくらい受入れが可能か見通しを立てておきたい。

(7) ミュージアムコンサート

内容	参加者数、実績（人）
作品を鑑賞しながら音楽を楽しむ館内ミニコンサート。 市内演奏家を起用して、新規層の来館を促進。 ・12/16 3公演 出演 大人のライアー倶楽部（6名のライアーアンサンブル）	106人
成果	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・美術と音楽のコラボ事業「ミュージアムコンサート」を昨年度に続き開催した。新たなファン層の獲得につながった。 ・当館展示室の響きの豊かさと不矩作品が創り出す空間で特別な時間をお楽しみいただくことができた。 ・出演者が運営する音楽教室の生徒など関係者や一般来館者でコンサートを目的に初めて来館する方も多数見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏時間が20分の予定のところ、1回目は30分を超えてしまった。作品をじっくり鑑賞したいという来館者にも対応できるように1回の時間をあえて短めに設定しているため、奏者との事前調整をしっかりとしたい。 ・聴く人数が増えると来館者と作品の接触リスクが高まるため、コンサート当日は監視スタッフを増員して対応できるようにしておく。

3 その他

様々な人に開かれた美術館とし、施設・設備の充実と健全運営を目指します。

(1) 来館者アンケート

スタッフ対応満足度	施設満足度	施設に望むもの
94%	97%	カフェコーナー 51%、常設展示室28%、図書コーナー16%、その他5%

※満足度は、来館者アンケートにおいて「満足」「やや満足」と回答した割合

(2) 美術館設備

市民ギャラリー貸出実績	令和5年度修繕の状況
所蔵品展期間中のみ実施 令和5年度：10団体 利用率は昨年比33.3%増 利用者数は9割増 ホームページでの利用案内や空き状況表示が成果をあげている	指定管理者実施分 ・屋内消火栓ホース取替修繕 ・非常照明器具取替修繕 ・アプローチ坂入り口木製手すり修繕 ・屋上屋根コーナーカバー修繕

(3) 展覧会等の情報発信

令和5年度に実施した広報活動等
<ul style="list-style-type: none">・展覧会年間スケジュールパンフレットの制作・配布を実施。 特別展のポスター・チラシとともに全国の美術館、美術系教育機関、メディア、市内施設、学校、観光施設、ホテル等へ発送・公式ホームページサイトの管理運営及びSNSによる情報発信。 フォロワー数：Instagram 800人、X 333人（3/31現在）SNSによるイベント告知を見た来館者も複数あった。・メディア取材対応・雑誌等の記事掲載。 新聞、ラジオ、ケーブルテレビ、市議会だより、美術関係月刊誌等への情報提供。地元紙以外にも全国紙、建築雑誌、イベントお出かけ情報誌、ファッションブランド撮影など対応。展覧会情報にとどまらない広報を充実させた。・特別展では、共催メディアによる新聞広告・テレビラジオCM・記事掲載の他、JR・遠州鉄道・天竜浜名湖鉄道へ交通広告を掲出し、情報発信。